

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	李 銘敬 (リ メイケイ)
在住国名	中国
所属・役職	中国人民大学 外国語学院 日本語文学部 教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2018年 9月 1日～ 2019年 8月 31日)
受入機関	国際日本文化研究センター
招聘研究テーマ	日本仏教文芸と唐宋文献との交渉関係に関する研究
研究目的	仏教説話集や往生伝、唱導文芸、絵巻などを含む日本仏教文芸形成の黎明期、日本仏教文芸の源流として大きな影響を与えた、唐宋遼時代の古写本を網羅的に精査・整理して、その成立・内容構成・作品特徴・撰者・著録状況、そして日本への伝来・影響、日本仏教文芸での受容様態を、双方向で総合的に検討、研究するのが今回の研究目的である。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>研究は二つに分けて進めた。一つには、日本仏教文芸に交渉のある唐宋文献古写本の調査・収集をした。もう一つには遼僧非濁撰『新編随願往生集』と『三宝感応要略録』の整理・研究を行なった。</p> <p>資料の調査・収集としては、『冥報記』高山寺蔵本の複写本、東大寺所蔵宗性上人抄録資料『弥勒如来感応指示抄』、金沢文庫所蔵湛叟(1270- 1345)所持本『華嚴経伝記』残巻(巻二と巻五)と『大方広仏華嚴経感応伝』との古写本、元永元年古写本『三宝感応要略録』(巻下)、国立公文書館蔵『地藏菩薩像靈驗記』・『釈氏要覧』・『大宋僧史略』、京大蔵『金剛般若集験記』写本、成實堂蔵南宋・陸師寿撰『新編古今往生浄土宝珠集』(第一巻、零本、徳富蘇峰旧蔵)、宮内庁書陵部蔵『優填王造栴檀釈迦瑞像歴記』・『仏説十王経』、青蓮院門跡吉水蔵聖教資料『深沙大聖伝』・『深沙大将儀軌要』・『金剛般若集験記』(巻下、零本、平安時代)、金沢文庫蔵中世唱導用資料『言泉集』、慶応義塾大学貴重書室蔵『金剛般若集験記』(巻中零本、平安時代)、国立歴史民俗博物館所蔵田中穰氏旧蔵典籍古文書所収『焰魔王堂絵銘』など関係資料の写本と版本を調査・収集した。遼僧非濁作品の整理・研究は、『三宝感応要略録』篇と『新編随願往生伝』篇にわけて研究を進めた。前者は新発見の写本と前田家本と対校したと同時に、初めて東寺観智院本『三宝感応要略録』上中下三巻に翻刻を行なった。後者については、『新編随願往生集』の編纂・内容・構造及び往生説話の特徴、それを題材にした偽撰戒珠集『往生浄土伝』と『漢家類聚往生伝』に関して精力的に研究を行なったのである。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>一)『新編随願往生集』の編纂・内容・構造及び往生説話の特徴について。『新編随願往生集』を取材して日本で再編された偽撰戒珠集『往生浄土伝』と『漢家類聚往生伝』などの残存資料を使って、『三宝感応要略録』と絡めながら、従来の研究で未解決の問題として以下の三つのことを検討してみた。1. 撰述時間、2. 所収説話と『三宝感応要略録』、3. 『新編随願往生集』の編纂・内容・構造及び往生説話の特徴。1と2について省略して、3だけについてその結論を言うと、『新編随願往生集』の内容を考えるには、題目にみる「新編」と「随願往生」という二つのキーワードを注目すべきで、ここでの「随願往生」とは、多種多様な往生方法と浄土世界を提示、強調している独特の往生集と理解できよう。『瑞応伝』をはじめ、唐宋以来編纂してきた中国の往生伝類、そのほとんどは阿弥陀仏の西方極楽の往生伝であった。その意味では、非濁の『新編随願往生集』は、特別な往生集だと言えよう。『漢家類聚往生伝』では、「印仏想観」、「造図仏像」、「敬礼諸仏」、「読書經典」といった行業を類聚して説話集を作ったもので、まさしくこの往生行業のことを最も重視している意図が見て取れる。なお、偽撰戒珠集『往生浄土伝』も『漢家類聚往生伝』も、共に日本の風</p>	

土に合わせて往生西方の説話のみをアレンジしたものだ、というところが一致しているのである。

二)偽撰の戒珠編『往生浄土伝』とは、一体どのようなものだろうか。その跋と巻中「沙門智臻觀九品淨刹往生淨土第二十」、巻下「唐賣薪翁念佛往生淨土第十五」と「童子藥藏聞念佛音往生淨土第二十七」などについての考察を通じて新知見を得た。跋文に「僞言冥語、皆歸阿字本空理、有誤記之愆、翻為當來世世讚佛乘轉法輪之因縁」とある文言や、巻下「唐賣薪翁念佛往生淨土第十五」「童子藥藏聞念佛音往生淨土第二十七」から見られるように、偽撰者の白楽天と楽天作品への強い注目が伺われる。この二話には「向僧具談有待辛苦」「迎阿蘭若而養育之如父」「勸、汝既衰暮之齡也、須出家念佛、一何惜白髮」「時令唱佛名許也」「何況每五更靜念佛不知幾少多乎」(以上は巻下第十五)「不覺淚自然」「父母異之間」「十年依宿縁難去為兒」(巻下第二十七)とあるような、和臭の強い語句や誤用が多く見出される。恐らく偽撰者が白楽天の『売炭翁』『睡覚』などを材料にして新しく杜撰した往生伝ではないか。それは「録新説、文直語淺、字句錯亂、交諺紛綸」「記者並復惟念、所傳者真偽何量、(前略)貴在得意、誰備不信口者乎。(前略)有誤記之愆、翻為當來世世讚佛乘轉法輪之因縁」という跋文後半の文言からしてもなんとなく気付かれるのではなからうか。よって、本偽撰は、大部分の往生伝が非濁撰『新編隨願往生集』から得たものでありながら、撰者が白楽天の作品などにより新撰した数篇の往生伝もそこに編入されたものとなる、という可能性は高い。『日本往生極樂記』が撰述された慶滋保胤の生きた「勸学会」当時の白楽天の影響を再現させたようなものがあろうかと思われる。

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

・「偽撰戒珠集『往生浄土伝』について」、「国語国文」、京都大学国文学会、投稿予定、内容の概略(研究成果概要2・2)ご参照)。

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・遼・非濁撰『新編隨願往生集』にみる往生伝—真福寺蔵『桑門戒珠集往生浄土伝』を中心にして

・名古屋大学人文学研究科附属文化遺産テキスト学研究センター公開セミナー

・2019年7月19日15:00—17:00 名古屋大学文学部棟1階大会議室

・遼代高僧非濁撰『新編隨願往生集』は『桑門戒珠集往生浄土伝』『漢家類集往生伝』といった形で日本で再編集・翻訳され、鎌倉期の浄土宗始祖法然上人及びその門下には大いに利用されたが、本書とは一体、どんな作品であったか、真福寺蔵『桑門戒珠集往生浄土伝』などを使ってそれを検討してみる。

○その他の活動

・受け入れ教授荒木浩氏の主宰した国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性—視覚／大衆／現代」研究班に参加した。中世文学会・説話文学大会などの日本学会に参加したりして、日本学者との交流を広め、研究情報を共有することができた。

4. 今後の活動予定

1)この一年間で調査と収集した資料を整理・消化して論文化すること。

2)『三宝感応要略録』古写本の総合的整理と『新編隨願往生集』を取材した『往生浄土伝』と『漢家類聚往生伝』(巻中)の整理・研究を合わせて一書に纏めること。